

創造への道 町民一丸で

厚真町長 宮坂 尚市朗

2022年の幕開けを迎えるにあたり、町民の皆さまに謹んでごあいさつ申し上げます。旧年中は、皆さまから町政諸般にわたり特段のご理解ご協力を賜り、改めて心より感謝申し上げます。

本町に未曾有の災害をもたらした平成30年北海道胆振東部地震から既に3年4カ月が過ぎようとしています。発災からこれまでの間、全国・全道の関係機関から深いご理解と多大なご尽力を賜り、全国から寄せられた温かいご支援に心から感謝申し上げます。

昨年は、追悼式に合わせて慰霊碑の除幕式を滞りなく挙行でき、犠牲となられた37の方々をしのび、ご冥福をお祈り申し上げます。新型コロナウイルス感染症に関するまん延防止等重点措置が発令されている中での追悼式でありましたが、復旧・復興とその先にある新たな創生への道を、町民一丸となってまい進することをお誓い申しあげました。

現在、町内において、国、北海道、厚真町が施行する社会基盤の復旧は順調に進んでいますが、一方で、宅地耐震化事業の推進と3000haを超える森林再生が課題となっており、関係者の皆様には大変ご心配をおかけしています。また、甚大な被害があった北部山間地のコミュニティ再生や未だ癒えることのない心の傷を抱えながら、不安な日々を過ごされている皆さまへのアプローチなど、感染症拡大防止のためやむ無く中断を余儀なくされました。地域再生と心のケアを地域や個々の事情に寄り添いながら、必要な取り組みを再び加速させなければなりません。専門性の高い分野もありますが、身近なコミュニティの支えや活動が、今後はさらに重要になってまいります。町民の皆さまのご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

さて、令和4年は、復旧のさらなる加速と復興への歩みが交錯する節目の年となります。昨年策定した第4次総合計画改訂版に包含されている復旧・復興計画では、「このつながりを未来へ」を主要テーマにしています。第一に住まい・暮らしの再建や心のケアの継続、地域コミュニティの再生・活性化の取り組み、第二に産業基盤の復旧と特に被害の大きかった森林および林業の再生、震災をきっかけとした絆と関係人口の拡大を図り新たな事業の創出への挑戦、第三に震災の教訓を踏まえ、避難所や避難道路を見直し、地域防災・減災体制の強化、第四として震災で学んだ多くの教訓と復旧・復興の記憶や経験を町内外で共有し、防災意識社会の実現一を目指しています。

同様にまち・ひと・しごと創生総合戦略では、誇りをもって働ける仕事の創出や、暮らしの課題解決に向けてたくさんのチャレンジがあふれるまちでありたいと願い、「ローカルで挑む」をテーマとして、挑戦者と伴走しながらさまざまなイノベーションを取り込む環境を用意してまいります。さらに、強靱化計画も包含しており、大規模自然災害から町民の生命・財産と本町の社会経済システムを守り、持続的成長を促進してまいります。

この総合計画改訂版が目指すところは、関係人口も含めた人々の“つながり”の大切さ、日

ごろからの備えの大切さ、震災の経験や地域の記憶を後世に伝える大切さなどです。被災したまちだからこそ気づかされた地域社会や歴史という時間軸におけるさまざまな絆を生かし、この町でもっと幸せに暮らすために必要な環境を整え、豊かな自然に抱かれたこの町を選び、移住・定住する方々の価値観を大切にするまちづくりです。

最新の話題では、庁舎建設と公共施設群の再編成、高度情報通信基盤整備やエネルギー地産地消事業を契機としたゼロカーボン北海道構想への貢献が挙げられます。SDGsの理念を尊重し、Society5.0時代の社会構造転換にちゅうちょなく挑む、人材や未来への投資を怠らない挑戦者として復旧・復興を成し遂げてまいりたいと願っています。

一昨年前に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの暮らしは大きな制約を強いられていますが、町民の皆さまには、引き続きの感染予防に努めて頂きますようご理解とご協力をお願いします。

二重災禍という「厳しい冬」を乗り越え、町民に笑顔が広がり、町が再び輝きを取り戻せるよう、地域と行政が一体となった創造的復興の一步に全力を傾注してまいります。

結びに、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、年頭のごあいさつとします。